



慶應義塾の未来の道へ

慶應義塾は全社会的な先導者を目指し、公共の発展に向けて常に新しいことに挑戦します。挑戦を続けるための原動力は「学問」です。いかなる状況においても時代の変化に対応した魅力的な教育研究活動を提供し、世界と密につながりながらグローバル社会で活躍する独立自尊の人材を輩出していきます。

挑戦の過程では予期せぬ事態も起こるでしょう。しかしながら、試行錯誤を乗り越えた先には新たな挑戦への道が拓かれます。そして、この好循環を生み出すにあたっては、豊かで安定的な財政基盤が不可欠です。慶應義塾では先端教育への幅広い活用を趣旨とする「慶應義塾教育充実資金」、学生生活全般を継続的にサポートする「慶應義塾維持会」を通じて、一層の飛躍を目指します。多くの皆さまのご理解とご支援をお願いいたします。



慶應義塾長
伊藤 公平

慶應義塾のさまざまな活動をご紹介します！

KEIO TOPICS

キャンパスライフの復活

2022年度春学期から9割以上の対面授業が再開され、塾生はキャンパスライフを取り戻しました。慶應義塾は法令や自治体の最新のガイドラインを遵守しながら、「コロナとの共生」をリードするための努力を続けます。



IMA※第44次派遣団、コロナ禍での活動を継続

南米諸国を訪ね、医療状況・医療教育を体験し、国際交流を行うことを目的としたIMA。コロナ禍で渡航が叶わない中、2021年度は日本国内三カ所をまわり、診察を通じて地域医療の現場に触れました。



第44次派遣団の団長・メンバーへのインタビュー(2022年6月)はこちら▲

※International Medical Association (慶應義塾大学医学部国際医学研究会)の略称

2040独立自尊プロジェクト

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート(KGRI: Keio University Global Research Institute)では、労働人口の急減、社会保障費の増大など社会課題の深刻化を見据え、個人および国家の「独立自尊」を守り、健全な社会を形成していくための取り組みとして、「2040独立自尊プロジェクト」を立ち上げました。新しい国家のあり方を提示し、日本が国際社会をリードすることで真の独立を追求します。



[KGRI所長×学生インタビュー]「2040独立自尊プロジェクト」は慶應義塾をつなぐ大きな架け橋へ！



「2040独立自尊プロジェクト」についての詳細はこちら▶

慶應義塾SDGs会議 — 2022塾生会議

SDGsをめぐる世界と日本の現状について専門家から学び提言をする「慶應義塾SDGs会議—2022塾生会議」が2022年6月に開講されました。大学の10学部すべてから選抜された塾生がディスカッションを重ね、SDGsを実現するための慶應義塾のヴィジョン・目標・ターゲットを検討します。春学期には「環境」「経済」等の観点から日本の現状を学び、秋学期には参加者同士がディスカッションを行い、慶應義塾長へのフレッシュな提言が届くことが期待されます。一貫校児童・生徒が参加する追加プログラムも夏休みに実施されました。



応援の言葉



一般社団法人日本経済団体連合会
政治担当統括主幹/CATCHY代表
大山 みこ君

慶應義塾は、私の「何でも楽しみながら挑戦する力」の源泉。自由で伸び伸びした中にも心地よい競争がある校風が私には合っていたようです。卒業後、留学や起業をしましたが、様々な場面で手を差し伸べてくださる塾員の皆さんの温かさに触れながら「こうやって後輩をサポートして下さるんだ」と感激しました。こうした経験を通じて、私自身も次世代の皆さんが個性豊かにカラフルに生きる応援をしていきたいと思っています。



アパレルブランドCLOUDY主幹/
認定特定非営利活動法人
CLOUDY代表理事
銅冶 勇人君

学校作りから会社設立・運営まで幅広く取り組んできましたが、すべてを一人でやるには限界があります。そんな時、欲しいと思っている情報をすぐに手に入れることができたり、必要な人とすぐに会うことができたりする、それが慶應義塾のネットワークであり、素晴らしいのだと実感しています。「それぞれの立場で物事を考える大切さ」を育む慶應義塾だからこそ、「求めれば何かが返ってくる」のだと思います。

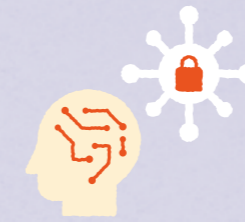


かんべ土地建物株式会社
代表取締役社長
神戸 雄一郎君

慶應義塾には感謝のひと言です。たくさんの友だちに出会うことができました。目標を持つ環境も提供してくれました。大学時代にアメリカカンフットボール部で主務を経験したことで、「色々な形でOBの方にお世話になっていることや支援のありがたさ」も知りました。これらを次世代の人たちにも経験してほしいと思います。伊藤塾長の「世界の舞台でリーダーシップをとれる人材を育成したい」という思いに、私も共感しています。慶應義塾が目指していることを理解して、塾員みんなで次世代のために協力することが大切なのではないのでしょうか。

先進的な取り組みに活用

慶應義塾 教育充実資金



→ 詳細はP3へ

日常を支える、土台となる

慶應義塾 維持会



→ 詳細はP4へ

インタビューの
ダイジェスト動画および
記事全文はこちら▶





先進的な取り組みに活用

慶應義塾教育充実資金

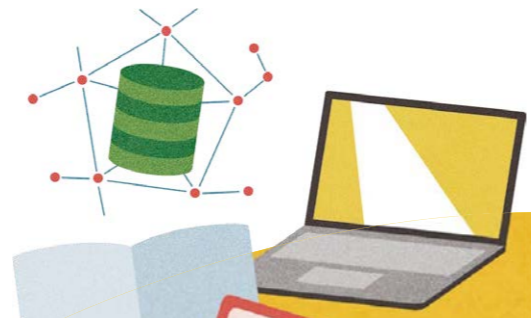
慶應義塾教育充実資金は

教育の先端的取り組みや重点事業に幅広く活用されています

「総合大学の強みを生かした特色あるプログラムの創出」、「国際化の推進」、「DXの推進」など、先端教育への取り組みをさらに加速させるために、幅広く活用させていただきます。未来の先導者としてグローバルに活躍できる人材育成のため、ご賛同とご協力を賜りますようお願いいたします。

皆さまからの支援は
さまざまな道に
つながっています。

【最先端教育を通じた
グローバル人材の育成に】



活用例

・各学部／研究科および
一貫教育校による
多彩な国際プログラムの
実施

【ICT教育の
強化に】



活用例

・対面とオンライン併用の
ハイフレックス型授業を
可能とする教育環境の充実

SDGsの支援に

慶應義塾は持続可能な開発目標 (SDGs) の17ゴールのうち、特にゴール4「質の高い教育をみんなに」の趣旨に沿った活動に対し、慶應義塾教育充実資金を活用していきます。



慶應義塾
教育充実資金
について▶



日常を支える、土台となる

慶應義塾維持会

慶應義塾維持会は

年額1万円から始められる支えです

「慶應義塾を支えたい」との思いを共有する関係者によって1901年に設立されました。時代とともに変遷を見せながらも、会員の皆さまからのご厚志のもとに、維持会奨学金をはじめとする教育・研究の振興、施設の拡充など慶應義塾の取り組みに幅広く寄与しています。



池上 真麻君
(維持会寄付者)

「塾員みんなで慶應義塾と勉学に励む塾生を支え合う」という理念に賛同し、維持会員になりました。地方出身の修学困難な塾生が勉学に専念できる環境を整える、という維持会奨学金の活動は素晴らしいと思います。慶應義塾には、日本はもちろんですが、グローバルに活躍できる世界のリーダーとなる人材を育成して欲しいですし、そのような慶應義塾をみんなで盛り上げたいですね。

インタビューのダイジェスト動画および
記事全文はこちら▶



維持会の仕組み



【学生生活の支援に】



2021年度は、維持会奨学金*や外灯の設置などのキャンパス整備のほか、慶應義塾の重点施策であるポストコロナの教育研究支援事業(コロナ対策、ICTインフラ整備、ハイフレックス授業環境整備など)に活用しました。

*維持会奨学金奨学生数は設置当初(2007年度)は43名でしたが、2021年度は135名となりました。

【豊かな教育・研究環境を
つくるために】



加入特典



●『三田評論』の贈呈

芳名掲載号(寄付ご入金月の2~3か月後)からご加入期間中、毎号贈呈します。芳名は非掲載を選択いただくこともできます。
※『三田評論』は明治31(1898)年創刊の歴史ある慶應義塾の機関誌です。



●維持会オリジナル記念品の贈呈

ペンマーク入りのクリスタル時計です。(新規終身会員のみ)

会員になるには

寄付金の額により、普通会员と終身会員の2種類からお選びいただけます。

- 普通会员 年額一口1万円以上の寄付
- 終身会員 30万円以上(一括)の寄付

慶應義塾
維持会
について▶



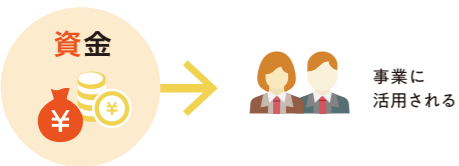
資金と基金の違いのご紹介

慶應義塾の募金事業には、大きく分けて「資金」と「基金」の2種類があります

大学資金

いただいたご寄付そのものが事業に活用されます。ご指定いただく用途の趣旨に沿って効果的に活用します。

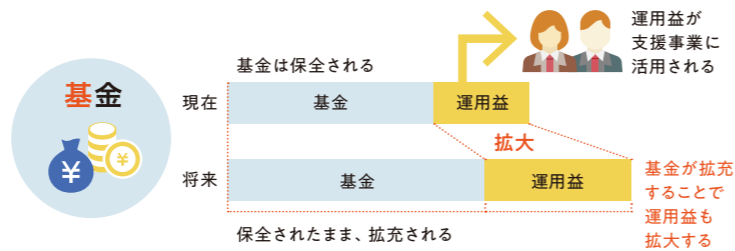
[大学資金の例] 慶應義塾教育充実資金



大学基金

いただいた寄付金は保全され、その運用益が事業に活用されます。基金は将来にわたり「保全」されるので、継続的な教育研究活動を実現できます。基金の拡充に伴い、運用益が増えるとより多くの事業を支援することが可能になります。

[大学基金の例] 福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金(福澤基金)、小泉信三記念慶應義塾学事振興基金(小泉基金)



ご希望に沿った寄付を
お申込みいただくことも可能です

気になる
あの研究を

同い学年の
後輩を

青春を
過ごした
キャンパスを

支えたい!

慶應義塾では、寄付者の方が希望される学部、学校、研究室などの個別の活動への寄付のお申込みも随時受け付けております。また、「慶應義塾に支援はしたいが、どのような取り組みがあるのかを知りたい」などのご相談にも慶應義塾基金室がいつでも対応いたします。

多様な学生・生徒・児童に教育の機会を

- ・慶應義塾給費奨学金基金
国内最大規模240億円の基金。110以上ある給付型(返済不要)塾内奨学金の財源となっています。
- ・慶應義塾大学修学支援奨学金
家計状況の変化、大規模自然災害などにより、経済的困窮に陥った学生の修学を支援。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学生への緊急支援の一環としても、本奨学金が活用されています。

所属していたキャンパス・学部・学校の教育・研究の発展のために

- ・教育充実資金*
学部・一貫教育校の教育活動を幅広く支援
- ・研究資金*
学部・研究科の研究活動を幅広く支援
- ・キャンパス整備資金*
キャンパス単位の教育・研究活動・環境整備を支援

魅力的な学生生活実現のために

- ・課外活動支援資金*
体育会、一貫教育校などにおけるさまざまな課外活動を支援

*印のついた資金は特定のクラブや学部、キャンパス等を指定することが可能です。(例:経済学部研究資金 など)

詳細情報・ご寄付の
用途に関する情報は
基金室Webサイトをご覧ください。



相続財産からのご寄付・ 遺贈(遺言によるご寄付)のご紹介

～いずれも相続税が非課税になるなど、税制上の優遇措置を受けることができます～

相続財産からのご寄付

慶應義塾では、ご遺族様の尊いご芳志に応えるために、相続財産からのご寄付を承っております。故人より相続した財産から慶應義塾に寄付した場合、ご寄付いただいた財産の相続税が非課税となります。ご寄付は、慶應義塾全体を支援する「慶應義塾教育充実資金」(P3でご紹介)のほか、各種奨学金、ご卒業の学部・研究科の教育充実資金や研究資金、体育会各部の強化資金など、用途をご指定いただくことが可能です。

遺贈(遺言によるご寄付)

遺言によって、ご自身が遺される財産を特定の人や団体に贈る(寄付する)ことを遺贈といいます。慶應義塾では、遺贈を通じたご支援も承っております。慶應義塾へご遺贈いただいた財産は、相続税の非課税財産になります。

詳細は
こちら▼



最先端研究活動を支援する

福澤基金

(福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金)

「学事の振興、学者の育成は義塾百年の計である」との設置方針に基づき、研究者の活動やキャリア形成を幅広く支援しています。



インターネット寄付はこちら▶

新しい教育の道をつくる

小泉基金

(小泉信三記念慶應義塾学事振興基金)

第7代慶應義塾長の小泉信三の遺徳と功績を顕彰し、塾生および一貫教育校生徒・児童の教育、スポーツ活動をサポートしています。



インターネット寄付はこちら▶

相続財産からのご寄付

慶應義塾では、ご遺族様の尊いご芳志に応えるために、相続財産からのご寄付を承っております。故人より相続した財産から慶應義塾に寄付した場合、ご寄付いただいた財産の相続税が非課税となります。ご寄付は、慶應義塾全体を支援する「慶應義塾教育充実資金」(P3でご紹介)のほか、各種奨学金、ご卒業の学部・研究科の教育充実資金や研究資金、体育会各部の強化資金など、用途をご指定いただくことが可能です。

遺贈(遺言によるご寄付)

遺言によって、ご自身が遺される財産を特定の人や団体に贈る(寄付する)ことを遺贈といいます。慶應義塾では、遺贈を通じたご支援も承っております。慶應義塾へご遺贈いただいた財産は、相続税の非課税財産になります。

詳細は
こちら▼



港区版
ふるさと納税制度
をはじめました
詳しくはこちら▶



詳細はこちら▶





慶應義塾へのご支援方法の紹介



個人の場合

インターネット募金 (クレジットカード・ページ)

スマートフォン、パソコン上でご寄付が完結するインターネット募金もぜひご利用ください。

■お申込み手続き上の注意

- ・現在お申込みを受けつけている使途は以下のSTEP1よりご確認ください。
- ・年内寄付については、基金室サイト内、「よくある質問・FAQ」の「1) ご寄付の申込方法について→Q申込方法を教えてください。」で詳細をご確認ください。



3STEPで
ご支援
可能

STEP1 アクセス

右のQRコード*
を読み込んで専
用Webページへ
アクセス



*QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

寄付したい募金
名称を指定し、申
込者情報を入力

STEP2 申込者情報の入力



オンライン登録済みの方は、寄付申込手続きが簡略化されます。

STEP3 決済情報の入力

クレジットカードもしくは
ページの決済情報を入
力。慶應義塾への入金確
認後、領収書を後日お送
りいたします。

銀行・郵便局(ゆうちょ銀行)

塾所定の払込用紙をお使いの上、金融機関(銀行または郵便局)の窓口からお振込みください。お手元に払込用紙がない場合は基金室までご請求ください。

※ATMやインターネットバンキングからの直接のお振込みは寄付者の特定ができない場合がございますのでご注意ください。

※現金でお支払いの場合、ゆうちょ銀行では手数料が110円かかります。

海外からのご寄付について

米国・香港納税者(個人・法人)の方は、Give2Asiaを経由して寄付をすることにより、税制上の優遇措置を受けることができます。詳細、お申込み方法は基金室までお問い合わせください。



法人・団体の場合

ご検討の際は、基金室までお問い合わせください。

お問い合わせ・資料請求フォームはこちら▶



寄付金控除の ご案内

慶應義塾へのご寄付は、税制上の優遇措置(寄付金控除)を受けることができます。

※入学した年内の寄付金(入学願書受付の開始日から入学が予定される年の年末までの期間内に納入したもの)につきましては、「学校の入学に係る寄付金」とみなされ、寄付金控除の対象から除外されます。但し、教育振興資金など一部の寄付については寄付金控除の対象となります。

個人でのご寄付

慶應義塾へのご寄付は、所得税の「所得控除」または「税額控除」のいずれかを選択いただけます。さらに住民税においても、条例で慶應義塾を寄付金税額控除の対象法人として指定している地域にお住まいの方は、住民税の「税額控除」の対象になります。

寄付金控除の流れ

(所得税の税額控除を選択した場合)



法人でのご寄付

- 「受配者指定寄付金制度」では寄付金全額が損金に算入できます。
- 「特定公益増進法人に対する寄付金制度」では一般の寄付金の損金算入限度額と別枠で損金算入できます。

・新入生保護者および新入生がご寄付される場合は、入学した年末までは「学校の入学に係る寄付金」とみなされ、寄付金控除の対象からは除外されます。

・公職選挙法等の法令により寄付が禁止されている方は、寄付募集の対象外とさせていただきます。

・税額控除についての詳細は基金室Webサイトの「税制上の優遇措置」をご覧ください。 <https://kikin.keio.ac.jp/>

・確定申告書作成等の詳細については、国税庁HPまたはお住まいの地域の税務署でご確認ください。
国税庁HP <https://www.nta.go.jp/>